

目論見書補完書面（投資信託）

（この書面は、金融商品取引法第37条の3の規定によりお渡しするものです。）

この書面、「交付目論見書」および「商品基本資料」の内容を十分にお読みください。

当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ規定）の適用はありません。

■当ファンドに係る手数料等について

- ・当ファンドの購入時手数料や運用管理費用（信託報酬）等の手数料につきましては、交付目論見書および商品基本資料に記載しておりますが、当ファンドの監査費用、有価証券売買時の売買委託手数料等の諸費用については、保有期間や売買条件等によりご負担額が異なりますので、あらかじめ表示することができません。
- ・当ファンドが投資信託証券、不動産投資信託証券等に投資をする場合、組入資産において管理・運営に係る費用等が必要となる場合がありますが、保有期間や運用状況等に応じてご負担額が異なりますので、あらかじめ表示することができません。
- ・当ファンドに係る手数料等の費用の合計額につきましては、上記の理由に加えて、購入金額や保有期間、運用状況等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することができません。

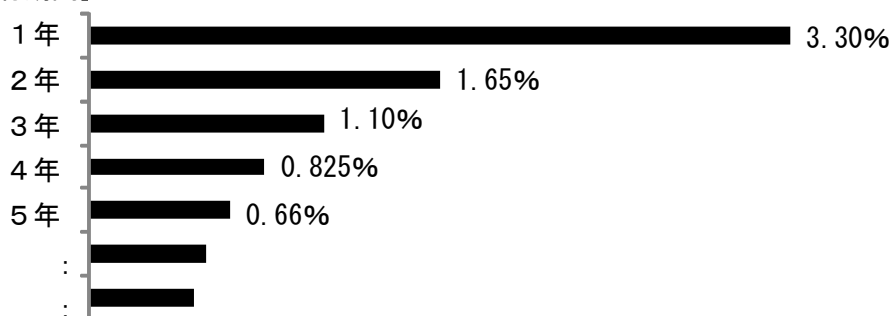
購入時手数料に関するご説明

投資信託の購入時手数料は購入時にご負担いただくものですが、保有期間が長期に及ぶほど、1年あたりのご負担率は低下していきます。

例えば、購入時手数料が3.30%（税込）の場合

【保有期間】

【1年あたりのご負担率（税込）】



※投資信託によっては、購入時手数料をいただくず、解約時に保有期間に応じた解約手数料をお支払いいただく場合があります。その場合も、保有期間が長期に及ぶほど、1年あたりのご負担率は低下していきます。

※上記の図の手数料率や保有期間は例示です。

実際にお買付いただく投資信託の手数料率や残存期間については、交付目論見書や商品基本資料でご確認ください。また、投資信託をご購入いただいた場合、上記の購入時手数料のほか、運用管理費用（信託報酬）や信託財産留保額、その他費用等をご負担いただくことがあります。実際の手数料率等の詳細は交付目論見書や商品基本資料でご確認ください。

■当ファンドに係る金融商品取引契約の概要について

みずほ信託銀行株式会社（以下、「当行」といいます。）は、ファンドの販売会社として、募集の取り扱いおよび販売等に関する事務を行います。

■当行が行う金融商品取引業の内容および方法の概要

当行が行う金融商品取引業は、主に投資信託、デリバティブ取引等の金融商品取引法第33条の2の規定に基づく登録金融機関業務です。

当行において投資信託のお取引を行われる場合は、以下によります。

- ・お取引にあたっては、投資信託口座または外国証券取引口座の開設が必要となります。
- ・お取引のお申し込みをいただいたときは、原則として、あらかじめ当該ご注文に係る代金を指定預金口座にお預けいただいた上で、ご注文をお受けいたします。
- ・お申し込みいただいたお取引が成立した場合（法令に定める場合を除きます。）には、取引報告書を郵送によりお客さまにご送付いたします。

■当ファンドの販売会社の概要

商号等	みずほ信託銀行株式会社 登録金融機関 関東財務局長（登金）第34号
発足日	1925年（大正14年）5月9日
本店所在地	〒100-8241 東京都千代田区丸の内1丁目3番3号
主な事業	信託業、銀行業、金融商品取引業（登録金融機関に認められる業務に限る）
加入協会	日本証券業協会 一般社団法人金融先物取引業協会 一般社団法人日本投資顧問業協会
当行の苦情対応措置及び紛争解決措置	一般社団法人全国銀行協会または特定非営利活動法人証券・金融商品あっせん相談センターを利用します。 ・全国銀行協会連絡先 全国銀行協会相談室 電話番号 0570-017109 または 03-5252-3772 ・証券・金融商品あっせん相談センター連絡先 電話番号 0120-64-5005
対象事業者となっている認定投資者保護団体	ありません
お問い合わせ先	・店頭または下記までお問い合わせください。 ・ホームページ（ https://www.mizuho-tb.co.jp/ ） ・ご照会窓口 0120-081-506 （受付時間）月曜日～金曜日9時00分～17時00分 （12月31日～1月3日、祝日・振替休日のご利用いただけません）
より詳細な当行の概要は、店舗またはウェブサイトに備えるディスクロージャー誌（開示資料）をご覧ください。	

商品基本資料

(本資料は、当ファンドの商品内容のご確認資料であり、金融商品取引法第37条の3の規定に基づくものではありません。)

GS フォーカス・イールド・ボンド (愛称:ターゲット・ボンド) 毎月決算コース / 年2回決算コース

1. 当ファンドの主な投資対象とファンドの特色

日本を含む世界の債券に分散投資することにより、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。

- ▶ 世界のさまざまな債券を組み合わせ、ポートフォリオの組入資産の平均利回りを約3%に維持することをめざします。
- ▶ 平均利回りの維持をめざしながら、ポートフォリオの価格変動リスクが最小となるよう、債券の組み合わせを原則として四半期ごとに調整します。
- ▶ 原則として為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ります。
- ▶ 決算頻度の異なる2つのファンドから選択でき、その後のスイッチングが無手数料で行えます。ただしスイッチングの際には、換金時と同様に税金(課税対象者の場合)がかかります。
- ▶ 各決算時に、分配方針に基づき収益の分配を行います。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。

2. 当ファンドに係るリスクについて

当ファンドは実質的に国内外の公社債を主な投資対象としますので、組入資産の価格の下落や組入資産の発行体等の収益性悪化および資金繰りの悪化等の影響により、基準価額が下落し、損失が生じることがあります。また、為替変動により損失が生じることがあります。したがって、お客さまの投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じ、投資元本を割り込むことがあります。

当ファンドの基準価額の変動要因には、主に以下のようなものがあります。あわせて投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご確認ください。

債券への投資リスク

- ◇ 債券の市場価格は、金利が上昇すると下落し、金利が低下すると上昇します。金利の変動による債券価格の変化の度合い(リスク)は、債券の満期までの期間が長ければ長いほど、大きくなる傾向があります。債券への投資に際しては、債券発行体の倒産等の理由で、利息や元本の支払いがなされない、もしくは滞ること等(これを債務不履行といいます。)の信用リスクを伴います。一般に、債券の信用リスクは、発行体の信用度が低いほど大きくなる傾向があり、債券価格が下落する要因となります。債券の格付けは、トリプルB格以上が投資適格格付け、ダブルB格以下が投機的格付けとされています。投資適格格付けと投機的格付けにおいては、債務不履行率に大きな格差が見られます。債券への投資には、期限前償還リスクが伴います。期限前償還とは予定された定期償還のみならず、元本の一部または全部が予定外の事情によって償還されることをいい、期限前償還によって見込まれた収益が得られない場合があります。

新興国債券への投資リスク

- ◇ 新興国市場への投資には、先進国の市場への投資と比較して、カントリー・リスクの中でも特に次のような留意点があります。すなわち、財産の収用・国有化等のリスクや社会・政治・経済の不安定要素がより大きいこと、市場規模が小さく取引高が少ないことから流動性が低く、流動性の高い場合に比べ、市況によっては大幅な安値での売却を余儀なくされる可能性があること、為替レートやその他現地通貨の交換に要するコストの変動が激しいこと、取引の決済制度上の問題、海外との資金決済上の問題等が挙げられます。その他にも、会計基準の違いから現地の企業に関する十分な情報が得られない、あるいは、一般に金融商品市場における規制がより緩やかである、といった問題もあります。

ハイ・イールド社債への投資リスク

- ◇ 一般に、ハイ・イールド社債は投資適格債券と比較して、債券発行体の業績や財務内容などの変化(格付けの変更や市場での評判等を含みます。)により、債券価格が大きく変動することがあります。特に信用状況が大きく悪化するような場合では、短期間で債券価格が大きく下落することがあり、本ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、ハイ・イールド社債は投資適格債券と比較して、債務不履行が生じる可能性が高いと考えられます。

為替変動リスク

- ◇ 本ファンドは、原則として対円で為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図りますが、為替ヘッジを行うにあたりヘッジ・コストがかかります。また、債券運用とは別に、本ファンドが実質的に組入れる投資信託証券では、収益の向上をめざし、アクティブな通貨運用を行います。したがって、為替変動リスクが伴います。為替レートは短期間に大幅に変動することがあります。

本戦略に伴うリスク

◇ 本ファンドは、実質的に世界のさまざまな債券に投資し、ポートフォリオの組入資産の平均利回りを維持する上で価格変動リスクが最小となるようにポートフォリオを構築しますが、市場動向等によっては、相対的にリスクの高い資産への資産配分が大きくなり、基準価額の変動が大きくなることのある等、ファンド全体のリスクが高まり、投資元本を割り込むことがあります。

3. 当ファンドに係る費用と税金について

購入時から換金・償還までの間に、お客さまに直接または間接的にご負担いただく費用・税金は、次の通りです。

(1) 直接的にご負担いただく費用・税金

時期	項目	費用・税金								
購入時	購入時手数料	購入申込代金に応じて、以下に定める手数料率を購入金額(購入口数×購入価額 ^(*))に乗じた金額								
		<table border="1"><thead><tr><th>購入申込代金</th><th>手数料率</th></tr></thead><tbody><tr><td>1億円未満</td><td>2.20%(税抜2.0%)</td></tr><tr><td>1億円以上5億円未満</td><td>1.10%(税抜1.0%)</td></tr><tr><td>5億円以上</td><td>0.55%(税抜0.5%)</td></tr></tbody></table>	購入申込代金	手数料率	1億円未満	2.20%(税抜2.0%)	1億円以上5億円未満	1.10%(税抜1.0%)	5億円以上	0.55%(税抜0.5%)
		購入申込代金	手数料率							
		1億円未満	2.20%(税抜2.0%)							
1億円以上5億円未満	1.10%(税抜1.0%)									
5億円以上	0.55%(税抜0.5%)									
例えば、100万円購入いただく場合、購入申込代金(お支払いいただく金額)の100万円の中から購入時手数料(税込)をいただきますので、100万円全額が当該投資信託の購入金額となるものではありません。										
分配時	所得税・地方税	普通分配金に対して、税金がかかります。								
換金時	信託財産留保額	ありません								
	所得税・地方税	値上がり益に対して、税金がかかります。								
償還時	所得税・地方税	値上がり益に対して、税金がかかります。								

(*)取引時に適用される価額は以下の通りです。

購入価額	購入申込日の翌営業日の基準価額
換金価額	換金申込日の翌営業日の基準価額

(注)上記は、個人受益者の税金の取り扱いを説明しております。課税の詳細、および法人受益者の税金の取り扱いにつきましては、投資信託説明書(目論見書)をご覧ください。
なお、税法が改正された場合等には上記の内容が変更となる場合があります。

(2) 間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用・税金

時期	項目	費用・税金
毎日	運用管理費用(信託報酬)	純資産総額に対して 年率 0.9955%(税抜 0.9050%)
随時	その他費用・手数料	監査費用、売買委託手数料等 詳細は投資信託説明書(交付目論見書)をご確認ください。

4. その他

信託期間	2016年6月14日より無期限 (約款所定の信託終了事由が生じた場合には、繰上償還されることがあります。)
換金代金支払日	原則として換金申込日から起算して6営業日目
委託会社	ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社
受託会社	株式会社SMBC信託銀行

※ あわせて投資信託説明書(交付目論見書)および目論見書補完書面を必ずご確認ください。

重要情報シート（個別商品編） 投資信託

1. 商品等の内容（みずほ信託銀行は、組成会社等の委託を受け、お客さまに商品の販売の勧誘を行っています）

金融商品の名称/種類	①GSフォーカス・イールド・ボンド 毎月決算コース（愛称：ターゲット・ボンド） ②GSフォーカス・イールド・ボンド 年2回決算コース（愛称：ターゲット・ボンド） / 証券投資信託
組成会社（委託会社）	ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社
販売委託元	ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社
金融商品の目的・機能	日本を含む世界の債券に分散投資することにより、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。
想定される顧客層	中長期での資産形成を目的とし、この商品の運用方針に則した収益を求め、元本割れリスクを許容する方
パッケージ化の有無	パッケージ化商品ではありません。 各商品は、投資対象としているファンド（マザーファンド）を通じて、上記の「金融商品の目的・機能」に沿って運用する商品です。 なお、当該ファンドの投資対象としている資産を個別に購入できる場合がありますが、お客さまご自身で各商品と同様の運用を試みたとしても、一般的には組成会社等が実施する運用を再現することは困難です。
クーリング・オフの有無	金融商品取引法の第37条6の規定によるクーリング・オフ（契約日から一定期間、解除できる仕組み）の適用はありません。

（ご質問例）

- ① あなたの会社が提供する商品のうち、各商品が、私の知識、経験、財産状況、ライフプラン、投資目的に照らして、ふさわしいと思う根拠は何か。
- ② 各商品を購入した場合、どのようなアフターフォローを受けることができるのか。
- ③ 各商品が複数の商品を組み合わせたものである場合、個々の商品購入と比べて、どのようなメリット・デメリットがあるのか。

2. リスクと運用実績（本商品は、円建ての元本が保証されず、損失が生じるリスクがあります）

損失が生じるリスクの内容	債券への投資リスク : 市場金利の変動や投資先などの破綻、期限前償還等による影響を受けます。 新興国債券への投資リスク : 先進国と比較して、社会・政治・経済の不安定要素が大きい、流動性が低い等のリスクがあります。 ハイ・イールド社債への投資リスク : 債券発行体の業績や財務内容等の変化による影響を受けます。 為替変動リスク : 為替ヘッジにより為替相場の変動による影響の低減をめざしますが、完全に排除できるものではなく、為替相場の影響を受けます。 本戦略に伴うリスク : 相対的にリスクの高い資産への資産配分が大きくなり、基準価額の変動が大きくなる場合があります。
--------------	--

①GSフォーカス・イールド・ボンド 毎月決算コース（愛称：ターゲット・ボンド）

参考:過去1年間の収益率 -0.5%（2021年11月末現在）

参考:過去5年間の収益率 平均1.4% 最低-6.3%（2020年3月） 最高12.4%（2021年3月）
（2016年6月～2021年11月の各月末における直近1年間の数字）

②GSフォーカス・イールド・ボンド 年2回決算コース（愛称：ターゲット・ボンド）

参考:過去1年間の収益率 -0.5%（2021年11月末現在）

参考:過去5年間の収益率 平均1.4% 最低-6.3%（2020年3月） 最高12.5%（2021年3月）
（2016年6月～2021年11月の各月末における直近1年間の数字）

※ 損失リスクの内容の詳細は、交付目論見書の「投資リスク」、運用実績の詳細は交付目論見書の「投資リスクの参考情報」や「運用実績」に記載しています。

（ご質問例）

- ④ 上記リスクについて、私が理解できるように説明してほしい。
- ⑤ 相対的にリスクが低い類似商品はあるのか。ある場合は、その商品について説明してほしい。

3. 費用（本商品の購入または保有には、費用が発生します）

購入時に必要な費用 (販売手数料など)	1億円未満：2.20%（税抜2.0%） 1億円以上5億円未満：1.10%（税抜1.0%） 5億円以上：0.55%（税抜0.5%）
継続的に必要な費用 (信託報酬など)	信託報酬＝運用期間中の基準価額×信託報酬率 信託報酬率は年率0.9955%（税抜0.9050%）。また、その他費用・手数料等が実費でファンドから支払われます。この実費の上限等や料率等を事前に表示することはできません。 信託報酬率の詳細は交付目論見書でご確認ください。
運用成果に応じた費用 (成功報酬など)	ありません。

※ 上記以外に生じる費用を含めて、詳細は交付目論見書の「手続・手数料等」に記載しています。

(ご質問例)

- ⑥ 私が各商品に〇〇万円を投資したら、それぞれのコストが実際にいくらかかるのか説明してほしい。
- ⑦ 費用がより安い類似商品はあるか。ある場合は、その商品について説明してほしい。
- ⑧ 上記費用について、何の対価かを説明してほしい。

4. 換金・解約の条件（本商品を換金・解約する場合、一定の不利益を被ることがあります）

各商品の償還期限はありません。ただし、繰上償還することがあります。
換金・解約の場合は、換金時手数料および信託財産留保額はかかりません。
市場の閉鎖、海外の取引所・銀行の休業日の場合等、換金・解約ができないことがあります。
信託財産の資金管理を円滑に行うため、各ファンドについて1顧客1日あたり3億円以上の大口のご換金は制限することがあります。
金融商品取引所における取引の停止、外国為替取引の停止その他合理的な事情があるときは、購入および換金の受付を中止・取消す場合があります。

※ 詳細は、交付目論見書の「手続・手数料等」に記載しています。

(ご質問例)

- ⑨ 私がこの商品を換金・解約する時、具体的にどのような制限や不利益があるのか説明してほしい。

5. みずほ信託銀行の利益とお客さまの利益が反する可能性（お客さまの取引における利益相反の状況を開示させていただきます）

みずほ信託銀行がお客さまに各商品を販売した場合、みずほ信託銀行は投資信託から組成会社を通して信託報酬の一部（年率0.484%（税抜0.44%））をいただきます。これは、お客さまへの情報提供等の対価です。
みずほ信託銀行は、本ファンドの組成会社等との間で資本関係等の特別な関係はありません。
みずほ信託銀行の営業員に対する業績評価上、この投資信託の販売が他の投資信託の販売より高く評価されることはありません。

※ 利益相反の管理とその取組方針については、みずほ信託銀行ウェブサイトの「利益相反管理方針の概要」をご覧ください。

<https://www.mizuho-tb.co.jp/coi/index.html>

(ご質問例)

- ⑩ あなたの会社が高得手数料が高い商品など、私の利益よりあなたの会社やあなたの利益を優先した商品を私に薦めていないか。私の利益よりあなたの会社やあなたの利益を優先する可能性がある場合、あなたの会社では、どのような対策をとっているのか。



6. 租税の概要（NISA、つみたてNISA、iDeCoの対象か否かもご確認ください）



時期	項目	税金
分配時	所得税および地方税	配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%
換金（解約）時および償還時	所得税および地方税	譲渡所得として課税 換金（解約）時および償還時の差益（譲渡益）に対して20.315%

※ 詳細は交付目論見書の「手続・手数料等」に記載しています。

みずほ信託銀行におけるNISA、つみたてNISA、iDeCoでの取扱は以下の通りです。

NISA	つみたてNISA	iDeCo
—	—	—

7. その他参考情報（契約にあたっては、みずほ信託銀行ウェブサイトに掲載された以下の書面をよくご覧ください）

販売会社（みずほ信託銀行） が作成した契約締結前交付書面 および 組成会社が作成した目論見書 ※概要ページの「目論見書・運用 レポート等」に記載しております。	① G Sフォーカス・イールド・ボンド 毎月決算コース（愛称：ターゲット・ボンド） https://fund.www.mizuho-tb.co.jp/webasp/mizuho-tb/fund/pc/detail/2016061401.html	
	② G Sフォーカス・イールド・ボンド 年2回決算コース（愛称：ターゲット・ボンド） https://fund.www.mizuho-tb.co.jp/webasp/mizuho-tb/fund/pc/detail/2016061402.html	

契約締結にあたっての注意事項をまとめた「契約締結前交付書面」、金融商品の内容等を記した「目論見書」をご用意しております。

(2022年2月現在)
金(広)01-9039-37401